



1908 マックスウェルモデルAAランナバウト



製造情報

製造商	マックスウェル
組付工場	ニューキャッスル、インディアナ州
モデル生産量	不明
総生産量	不明
馬力	12
重量	1,100ポンド/ 499キログラム
当時売価	\$600

イノベーション(ポイントのみ)

マックスウェルは最初に女性市場に出た

マックスウェルは男性と女性の営業担当者を雇いました

マックスウェルの2気筒車は人気があり信頼性がありました

マックスウェル – 非常に人気があるクルマ!

1902年にはシートメタル製品の裕福なデトロイトのメーカー“ベンジャミンブルスコ”が自動車のパイオニアデビッドビュイックに投資しました。1903年、ビュイックは市場性の高い製品を生産できなかったため、BriscoeはJonathan D. Maxwellという若手エンジニアに資金を提供しました。1905年の終わりには、833の2気筒の水冷式のフロントエンジンマックスウェルランナバウトがニューヨークのタリータウン工場から出現しました。売価は\$750で加えてよく設計され、良い買いだった。彼らはすぐにアメリカのお気に入りの安価な2気筒ランナバウトになりました。1910年までに、生産台数は2万台を突破し、業界で3位を獲得しました。生産は1913年にデトロイトに移った。プリマスの起源は実際にマックスウェルの自動車にさかのぼることができる。Walter P. Chryslerが1920年代初めに問題のあるMaxwell-Chalmers自動車会社の支配権を引き継いだとき、彼はパッケージの一部としてMaxwellを継承しました。1928年、クライスラー・プリマスはモデルQを生産しました。これは再加工されたマックスウェルでした。

ミシガン州のジョンフォスター、ロイヤルオークから貸出。ジョンはピケに多くの車を貸出している。彼もピケット博物館モデルクラブの非常に活発なメンバーです。